<News Release>

2026 年 11 月 19 日
株式会社博報堂
株式会社 Hakuhodo DY ONE
株式会社博報堂プロダクツ

「人と AI の双方に選ばれる」コミュニケーションを実現する AIO 起点の PESO 統合対応スキーム「AIO Communication ONE」を始動

―生活者の“問い”の発見から、PESO 横断のデータ統合・投資配分の設計まで支援―

株式会社博報堂（以下 博報堂）と株式会社 Hakuhodo DY ONE（以下 Hakuhodo DY ONE）、株式会社博報堂プロダクツ（以下 博報堂プロダクツ）は、博報堂ＤＹグループ各社と連携し、AIO（AI 最適化）を起点に、広告（Paid）、PR・パブリシティ（Earned）、SNS・クチコミ（Shared）、自社メディア（Owned）を横断してのコミュニケーション統合対応スキーム「AIO Communication ONE」を始動することをお知らせします。

本スキームは、グループ各社がこれまで個別に開発・提供してきた AIO 関連ソリューションを、生活者の問いの発見から、プラニング、施策実行、効果計測・改善までの一貫したプロセスとして体系化したものです。博報堂と Hakuhodo DY ONE と博報堂プロダクツの一体運営チームを窓口に、グループ各社の専門性を結集し、生活者に向けたコミュニケーションと、AI に正しく理解・参照されるための情報環境づくりをワンストップで支援します。

※PESO＝上記 4 つの頭文字をとっての総称

■サービス開発・提供の背景

生成 AI の急速な普及により、生活者の情報探索は「自ら検索し、複数の Web サイトを比較する」スタイルから、「AI に相談し、要約された回答や推薦をもとに判断する」スタイルへと変わりつつあります。
こうした環境では、AI が何を参照し、どのブランドを推薦するかが重要になります。そのため企業には、生活者に届けるコミュニケーションに加え、AI に正しく理解され、語られるための情報環境づくりが求められています。

広告においても、AI への問いかけそのものを促す表現が登場しはじめるなど、生活者に向けたコミュニケーションと AI に向けたコミュニケーションを切り離して考えることはできなくなっています。一方、多くの企業では広告、PR、SNS、自社サイトの施策や計測データが領域ごとに分かれています。コンテンツやクリエイティブの統合は進みつつあるものの、Owned・Earned・Paid などのデータが別々に蓄積され、PESO を横断して効果を検証し、次の施策に生かすことは容易ではありません。

そこで博報堂ＤＹグループは、博報堂の「生活者発想」に基づくプラニング力と Hakuhodo DY ONE の AIO・広告運用・データ活用の実装力、さらに博報堂プロダクツのデジタル・リアルを横断した顧客化接点の企画・実装・プロデュース力を一体運営で掛け合わせ、グループ各社および業務提携企業の専門ソリューションを束ねる本スキームを立ち上げました。

■「AIO Communication ONE」の特長

本スキームは AIO を入り口に PESO 各領域の専門ソリューションを束ね、次の 3 つの特長により、企業のコミュニケーション変革を支援します。

①生活者に向けた PESO と、AI に向けた PESO を統合
②フロント（コンテンツ・クリエイティブ）と、バック（データ・計測）を統合
③ブランドの現在地の可視化から、中長期の投資価値の算定までを統合

なお、博報堂ＤＹグループでは、AI 時代の購買体験を変革する「コマースエクスペリエンスデザイン」領域を「Agentic Commerce ONE™」が、ブランドとの出会いや選ばれ方を設計する「コミュニケーションデザイン」領域を本スキームが担い、両輪で企業を支援します。
※Agentic Commerce ONE™についてはこちら（https://www.hakuhodo.co.jp/news/newsrelease/267297/）

■ 提供の全体像

本スキームは、以下の 4 つのステップで構成され、ステップごとにグループ各社のソリューションを組み合わせて提供します。



STEP 1　ディスカバリー（発見・診断）：Web・SNS での商材の語られ方、生活者が AI に投げかける意図・問い、自社メディアへの流入から見える予兆・機会から、現状・競合の分析、強み・弱みの把握、獲得すべき問いの発見まで、生活者とブランドの接点となるプロセス分析を、スピーディーに提供します。
STEP 2　プラニング（統合設計）：博報堂と Hakuhodo DY ONE・博報堂プロダクツの一体運営によるプラニング＆プロデュースチームが、優先して獲得すべき問いを定め、生活者と AI の双方に向けた情報設計と、PESO の役割分担・投資配分を設計します。
STEP 3　エグゼキューション（施策実行）：グループ各社が先鋭化させてきた専門ソリューションを、広告、オーガニック（SEO／AIO）、オウンドメディア（LP・Web サイト・EC サイト）、コンテンツ・SNS、PR、メディアタイアップ（新聞・出版）、インフルエンサーの 7 領域で組み合わせて実行します。
STEP 4　モニタリング（計測・改善）：AI 上の言及・引用状況や競合状況、流入と直接・間接のコンバージョン、コンテンツと生活者の意図のマッチ度、LTV などを統合的に分析し、次の施策へ還元します。

＜AIO Communication ONE の主なソリューション＞

ステップ	領域	PESO	主なソリューション（提供中）
STEP 1 ディスカバリー（発見・診断）		統合	AIO（AI 最適化）診断、バーチャル生活者、SNS 分析
STEP 2 プラニング（統合設計）		統合	統合プラニング、CX クリエイティブ
STEP 3 エグゼキューション（施策実行）	広告	Paid	AI 検索広告・会話型広告（ChatGPT 広告等）、リスティング・フィード広告
	オーガニック（SEO／AIO）	Owned/Earned	AIO（AI 最適化）コンサルティング
	オウンドメディア（LP・Web・EC）	Owned	AI フレンドリーなオウンドメディア構築、ONE-AIO Lab for ECommerce、Data Enrichment for 商品インサイト、ONE-AIO Lab「Apps in ChatGPT」、「KARTE Blocks」を活用した AIO 支援サービス
	コンテンツ・SNS	Shared/Owned	AI フレンドリーな YouTube 動画制作、出版社連携コンテンツマーケティング、記事コンテンツ制作／FAQ・比較コンテンツ制作／既存記事リライト
	PR	Earned	ONE-AIO Lab for Public Relations
	メディアタイアップ（新聞・出版）	Paid	Shomei AIO（編集部とともに“問い”を設計し、タイアップ記事を企画・制作）
	インフルエンサー	Shared/Paid	インフルエンサーマーケティング×AIO
STEP 4 モニタリング（計測・改善）		統合	AIO 統合ダッシュボード（順次提供予定）

博報堂、Hakuhodo DY ONE、博報堂プロダクツをはじめ博報堂ＤＹグループでは今後も、グループ各社の知見と技術を結集し、本スキームのソリューションラインナップを拡充してまいります。博報堂ＤＹグループは、博報堂ＤＹグループの横断的な AI 専門家集団 HCAI Professionals の活動として、エージェンティックコマース領域の「Agentic Commerce ONE™」とあわせ、AI 時代における企業のコミュニケーションとコマースをエンドツーエンドで支援してまいります。

【参考】博報堂ＤＹグループによるワンストップ支援体制

◆博報堂：本スキーム関連のプロジェクトを統括。ストラテジック・プラニング、IMC・CX クリエイティブ、バ

ーチャル生活者等を活用した生活者の意図の発見、AI を活用したブランド資産の可視化や投資価値の算定を提供。また、「Shomei AIO※」プロジェクトとして、新聞社・出版社の編集部と連携し、生活者が AI に投げかける“問い”の設計から、広告であることを明示したタイアップ記事の企画・制作までを提供
※「Shomei AIO」についてはこちら（https://www.hakuhodo.co.jp/news/newsrelease/267429/）
◆Hakuhodo DY ONE：主に AIO/SEO 診断・コンサルティング、オーディエンスデータを活用したインテント分析、AI 検索広告をはじめとした広告、各タッチポイントのクリエイティブ制作、ダッシュボードによる計測・モニタリングなどを統合プラニング&プロデュースチームにて提供
◆博報堂プロダクツ：コンテンツ生成のほか、PESO 統合専門組織に属する統合プロデュース人材を入口とした AIO 診断から、ジャーニー設計、デジタル×リアルの顧客化接点の横断企画から実装・効果測定までを提供
◆株式会社グロースデータ：主に AIO 診断、SNS 分析、AIO ダッシュボードの構築などからプラニングへのブリッジまでを提供
◆株式会社博報堂アイ・スタジオ：AI フレンドリーな UXUI デザインとオウンドメディア構築、それに伴うコンテンツ実装から分析、運用管理までワンストップで提供
◆株式会社博報堂マーケティングシステムズ：主に AI 上の言及状況計測、KPI 策定、サイト基盤・CMS 改修を提供
◆株式会社オズマピーアール：主に PR 視点の AIO、第三者（メディア）の信頼性設計を提供
◆株式会社スパイスボックス：主にソーシャルリスニング、SNS・YouTube 動画を通じた共感型コンテンツ企画を提供

※業務提携企業
◆株式会社 AI Hack：AIO ツール「AI Hack」の開発・提供

【本件に関するお問い合わせ】
株式会社博報堂　広報室　大貫・丸山　koho.mail@hakuhodo.co.jp
株式会社 Hakuhodo DY ONE　広報担当 E-mail：info-pr@hakuhodody-one.co.jp
株式会社博報堂プロダクツ　広報部　小出・兵頭　hp.koho@hakuhodo.co.jp